

市橋則明(編)

運動療法学各論 高齢者の機能障害に対する運動療法

篠原英記

(神戸学院大学総合リハビリテーション
学部医療リハビリテーション学科)

この度、「運動療法学各論 高齢者の機能障害に対する運動療法」が市橋則明教授の編集により文光堂から出版された。序文に示されるように「今までにない書を作りたい」という編集者の意図があつてか、高齢者の運動療法に関する各分野のエキスパートを執筆者とし、各主題ともにユニークな出来栄えになっている。

各主題は① 高齢者の運動機能の理解、② その運動効果とエビデンス、③ 運動機能評価、④ 運動療法の理論と実際、⑤ 転倒予防、⑥ 認知的側面からの運動療法、⑦ 高齢者の姿勢と運動療法、⑧ 地域介護予防事業の方法と効果からなるが、理学療法士が高齢者の運動に関わるほとんどの分野(医療・保健・福祉・社会)が網羅され、疾患にとらわれることなく執筆されている。各主題を読み進むと、各執筆者の現在までに凝集されてきた指向性・職業体験が垣間見え、結果として読者にそれぞれの視点で高齢者の運動を捉える機会・ヒントを与えている。

先に出版された「運動療法学—障害別アプローチの理論と実際」を総論とすれば、本書はその各論的存在である。ただし、総論から読み進む必要はなく、この分野を専門とする理学療法士にとっては本書から読み進めても何ら差し支えない。重要な箇所は赤字フォントで記され、論点がよく分かるように工夫されている。読者が説明してほしい用語には「メモ」として解説

が付けられている。

本書の対象者は高齢者の運動療法をより深く学ぼうとする学生、臨床理学療法士および関連する研究者であろうが、これらの運動の生理学や運動学を学んできた人々にとっては分かりやすくかつ実践的な書となリエている。また本書の特長の一つとして各主題に示されている文献の多さがあげられる。各執筆者はこれらの豊富で最新の情報を駆使し、自らの経験と研究成果を織り交ぜながらエビデンスをもって深く掘り下げた内容に仕上げている。このことから本書が単なる教育の書・うわべだけの書ではないことが理解できる。高齢者の運動に関する今日の話題を含めた多くの示唆に富んだ内容が盛り込まれており、研究としても大いに参考になる。各主題に評価指標・評価手順・研究手法が豊富に適切に盛り込まれており、各基準値が詳しく記されている。読者は完全な理解に至らない箇所もあるであろう。それを理解するためには、付された文献を孫引くことによって、より科学的に解決することができる。

本書の最終的な受益者は理学療法士が関わる高齢者である。しかし、一般人が本書を理解するには多少難解で、相当の医学的知識が必要である。しかし、理学療法士が読者となって深くこの書の内容を理解し、受益者(高齢者)に対して噛み砕いて説明するならば、受益者(高齢者)は運動の重要性を理解するようになり、どのような方法で運動を実施すべきか、その際の注意事項は何か、などを理解することができる。これらのことを考えると本書が世に出た意義はたいへん大きい。

●B5 判・176 頁・2 色刷

定価 5,775 円(本体 5,500 円+税)

2010 年 5 月 文光堂・刊